

新型コロナウイルス感染症対策における留意事項

1 基本的な考え方

(1) 現在実施しなければならないこと

感染者の急増（オーバーシュート）はどの地域でも起こりえることで、それを避けるためには、多くの人々の十分な行動変容を通じた協力が不可欠です。

3つの条件が同時に重なる場を避ける

人と人の接触をできる限り絶つ

感染状況別による地域ごとの対応についてどの分類と判断されても、上記2点は徹底して実施しななければなりません。

(2) 今後の見通し

「短期的収束は考えにくく長期戦を覚悟する必要があります」との分析ですが、**収束**と記載されている場合は、患者数が一定程度減少することや集団的な感染が見られないようになるなど、感染が一時的に落ち着いていることを表しています。（この状態はいつでも再流行する場合があります）

新型コロナウイルス感染症に関する対応が終了する**終息**は、日本だけでなく世界での状況も考える必要があるため、一層の時間がかかると予測されています。

（平成21-22年の新型インフルエンザの流行では、国内での患者発生から終息宣言まで1年3か月ほど要しています）

2 3つの条件を避けるためには

(1) 3つの条件

①密閉された空間、②人が密集する状態、③近距離での活動の3点です。

(2) 「3つの条件が同時に重なる場」の考え方

「同時に重なることを避ける」とは、3つの条件の内2つまでは重複してもよいという意味ではなく、条件それぞれに対して十分な対策を行う必要があることを表しています。

例えば屋外でのスポーツイベントでは、密閉状態にはなりえないと考えられがちですが、着替えやミーティングを行う際に室内で換気が十分にできない状態が発生する可能性があります。

同じく、多数の人が集まるイベントにおいて実施の前後で近隣の飲食店等の施設が混雑した場合、周辺のトイレや休憩所において3つの条件が重なる可能

性があります。

このように、**感染拡大が起こりやすい条件が発生する可能性を予測し、3つの条件全てに対策を行うことで重複が起こる状況を避けることが必要であり、それができない場合は、当該のイベントや行事、事業等は中止や延期、実施方法の変更を検討しなければなりません。**

(3) 密閉された空間を避けること

必要なことは、**換気の徹底**です。

【実施方法の一例】

- ・ 2 方向を開放する。
 - 室内全体の空気を入れ換えることが重要です。
 - 1 方向の開放で換気される範囲は、開放している周辺だけです。
 - 1 方向の開放と換気扇の併用やエアコンの使用も効果があります。
- ・ 定時で実施する。
 - こまめに実施することが重要です。
 - 科学的な根拠は明確になっていませんが、概ね 1 時間に 1 回実施することが勧められます。

(4) 人が密集する状態を避けること

必要なことは、**常に人と人との距離が離れている**ことです。

【実施方法の一例】

- ・ 1～2 メートルは距離をとる。
 - 常時距離が保たれていることが重要です。
 - 室内では距離を取るだけでなく、人の密度を低下させることも必要です。

(5) 近距離での活動を避けること

必要なことは、**接近して会話（発声する行為）をしない**ことです。

【実施方法の一例】

- ・ 人が近くにいる状態で発声しない。
 - 近距離とはお互いの手を伸ばして届く距離です。
 - 対面していなければよいのではなく、並列でも声を出す行為が行われないことが重要です。（例：合唱や応援）
- ・ 避けられない場合は、防護策を実施する。
 - 自らの発声による飛沫を防ぐためにマスクなどの使用が必要です。

3 人と人との接触をできる限り絶つとは

- 3月19日の専門家会議、20日の政府対策本部実施後に、これまでの状況が変わったわけではありません。
- 例えば、イベントの実施について表現方法は変わっていますが、これまで通り慎重に実施の必要性を判断することや体制が整わない場合は中止や延期をすることは変更されていません。
- これまでの個人の対応（リスクが高い場所にはいかない、症状がある場合は外出しないなど）は、今後も継続することが求められています。

4 参考資料

新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言（対策専門家会議）3月19日

新型コロナウイルス感染症対策の見解（対策専門家会議）3月9日

新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解（クラスター対策）（対策専門家会議）3月2日

新型コロナウイルスの感染が疑われる人がいる場合の家庭内での注意事項（日本環境感染学会）2月28日

医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド第2版改訂版 (ver.2.1)（日本環境感染学会）3月10日

新型コロナウイルス感染症に対する感染管理（国立感染症研究所）3月19日